

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100034		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホーム元菊		
所在地	石川県金沢市元菊町20番1号		
自己評価作成日	平成31年3月3日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成31年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金沢駅より徒歩圏内。医療やリハビリ、介護など総合的にサービス提供を行っている。金沢春日ケアセンターの3階部分に位置します。普通の民家のようなグループホームとは一見違いますが、大きな建物や多職種が連携できる利点を生かして日々サービスの向上に努めています。それぞれの方が送ってこられた生活様式を大切に考え、今までと変わらぬ家庭的な暮らしにできる限り近づけるようお手伝いいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との付き合いは、クリスマスに町会や公民館の人がカードを持ってきてくれたり、百万石まつりの太鼓行列を見に行ったり、近くの神社や公園に散歩に出かけたときに地域の人たちと交流している。食材や日用品の買い物に利用者と一緒にスーパーに出かけている。法人の盆踊りやお祭りにはフラダンスや太鼓、落語、模擬店などに地域の人たちも集まって楽しんでいる。
食事を楽しむ支援は、利用者に「何が食べたいか」聞いて、できるだけ好きな物を取り入れ、今なら旬のタケノコや菜の花なども取り入れた1週間分の献立を作り、毎日買い物に行っている。食事の手伝いは、下ごしらえや切る、味見など出来ることをしてもらっている。職員は、一緒のテーブルに座り、介助をしながら、「食べられるだけ食べてね」など、その方、その方に応じた声かけをしている。また、正月、雛祭り、花見、クリスマスなどの季節の行事や誕生会では、いつもより少し豪華な食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に、グループホーム元菊独自の理念を掲げている。地域の中でその人らしく生活できるよう謳っている。	法人の理念は建物玄関での掲示やホームページ等で周知が行われており、職員はクレドを携行してその共有を行っている。法人理念とは別に、グループホーム独自の理念があり、管理者は新しい職員が配属された時には理念について説明を行っている。その後新人職員のオリエンテーションチェックが入職後1か月後と2か月後におこなわれその際にも管理者は新人職員と個別に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百万石まつりに併せた子供会の太鼓行列。年末にはキリスト教会によるクリスマス会などの交流をしている。	地域との付き合いは、クリスマスに町会や公民館の人がカードを持ってきてくれたり、百万石まつりの太鼓行列を見に行ったり、近くの神社や公園に散歩に出かけたときに地域の人たちと交流している。食材や日用品の買い物に利用者と一緒にスーパーに出かけている。法人の盆踊りやお祭りにはフラダンスや太鼓、落語、模擬店などに地域の人たちも集まって楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習の折に認知症介護のレクチャーを行い人材育成に貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は所定の回数に満たなかったが身体拘束についての話し合いや活動報告を行った。	家族、町会長、公民館、金沢市職員等が参加して身体拘束をテーマにしてH30.6月に開催している。グループホームにおける身体拘束の状況(行っていない)、万が一に身体拘束を行う場合の3要件について、身体拘束の弊害について説明後、質疑応答をしている。この他、ミニバスツアー、花見、盆踊りの予定について活動報告を行っている。平成30年度はこの一回のみの開催である。	二カ月に一回の開催が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法的に判らない事、疑問な点などは直接介護保険課に問い合わせるなど法令順守に努めている。	介護事故が発生した時には市に適正に報告を行うが、今年度は報告すべき事故は発生しなかった。介護保険課とは制度改正や報酬改正があった時には、不明な点について尋ねている。また、疑問点があった時にはその都度金沢市に問い合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を研修や勉強会等で職員に周知、拘束による弊害についても話し合っている。	虐待防止マニュアルの中に身体拘束廃止指針やマニュアルが整備されている。身体拘束委員会で3か月に一度検討を行うほか、法人のリスクマネジメント委員会でも身体拘束についての検討を行いその議事録をホーム職員で回覧している。研修は9月と12月に実施している。入口の施錠は夜勤帯に防犯上の観点で行っている。また、転倒予防のためにセンサーを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待が行われていないか常に気を配っている。職員一人ひとりが注意して虐待に抵触しないよう言葉がけや介護のありかたを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に成年後見制度や日常生活自立支援事業の理解を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族によく理解してもらえるよう平易な言葉を使った説明をし契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段は話しやすい職員に声をかけていただき、気軽に意見を言えるよう体制を整えている。意見や要望に関しては管理者が責任を担っている。	苦情受付の体制は重要事項等で周知され、玄関には意見箱を設置して要望意見が出された時にはその対応を含めて公表している。苦情があった時には苦情処理台帳で受付、内容、原因、責任者意見、施設長からの指示等を記載しているが、ここ数年苦情の事例は無い。家族来訪時には利用者の近況を伝えるとともに家族からの意見や要望を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回のミーティングの時や日々の仕事の中で意見や提案などを聞いている。	管理者は他の職員と同じくシフト勤務に入っているためいつでも職員の提案や意見を受けることができる。法人の感染症委員会や行事委員会等に参加したり、毎月の法人全体の研修に参加して幹部職員との交流もある。法人理事長とは忘年会の時に直接に話すこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の給与査定制度があり個人の努力を反映させている。また建物内で研修があり働きながらキャリアアップができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に法人内の研修については参加を勧めている。また希望があれば法人外の研修にも参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や他事業所との交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴と受容を基本として良好な関係づくりに努めご利用者の心配事、要望等に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人のこれまでの生活の中で要望や不安な事などないか、ご家族からの話に耳を傾いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め個々に見合ったサービスと支援ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でご本人のできる作業は率先して行って頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員では対応困難なご本人の安心感への対応や家族との外泊、病院の受診等協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの親族や職場の元同僚、ご学友、近所の方など面会に来られている。	入居時には家族の写真やお気に入りの洋服、使い慣れたクッション、毛布、ひざ掛け等馴染のものを居室に持ってきて使っている。同級生や昔の職場の友人が遊びに来て談笑している。盆や正月には家に帰ったり、家族と温泉に行ったり、墓参に出かけたり孫の結婚式に参列する人もいる。訪問日は丁度利用者の誕生日、昼食にその人の好きなお刺身を用意してお祝いしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士挨拶をしたり歌を歌ったりしながら楽しい時間を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所の移住の際は書面と口頭による申し送りを行いご本人が引き続き適切なサービスを受けられるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中から思いを汲み取っている。思いや意向を伝える事が困難な場合もご本人に寄り添い馴染みの関係の中で意向に沿えるよう努めている。	非言語表現、しぐさ、素振り、表情などから訴えていることを想像したり、利用者のこういう言葉やしぐさはどういう意味があるのか家族に聞くと、家族が答えを持っていることがある。また、昔の介護記録を読み返すと見えてくることもあったり、アセスメントを含めた介護計画をしっかりと読むことで本人への理解が深まる。職員が利用者とかかわって気づいたことはその都度話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、これまでのサービス利用など、ご家族や他サービス事業所から聞き取り職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おひとりおひとりの1日の生活の流れが違うのでご本人の意志を尊重しながら観察し把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が安心して穏やかに過ごせるようご家族の意向を踏まえ職員内でカンファレンスを行い職員の連携のもと介護計画を作成している。	介護職員も含めてアセスメントを行い、担当者会議で介護計画を共有している。モニタリングは計画作成担当者が介護職員からの聞き取りにより毎月行っている。大きな変化がなくても計画は6か月ごとに更新している。介護経過記録は介護計画2表のニーズの番号とサービス内容の番号を付して、計画に沿った記録を行っている。この他医療関係の記録、バイタルと排尿の記録等がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録や申し送り表を活用して職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科病院受診の際などに配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんに来て頂きクリスマス会など季節の行事などを催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については一律に法人内の医師に頼るのではなくご本人やご家族の希望により選んで頂いている。	利用者のほとんどが協力医療機関がかかりつけ医となっている。医療機関は同一敷地内にあるため2週に一回の往診の他にも開業時間帯であればいつでも対応してくれるし、夜間は24時間オンコール体制となっている。また、歯科医療機関も週に一回法人に往診に出向いてくれる。皮膚科、眼科の往診もあり、常に適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	建物内に看護師がいるのでこまめに相談したり訪問をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護支援専門員がサマリーを作成、入院先の病院に持参するなど情報の共有化に努めている。退院時も介護支援専門員が病院を訪問の上、課題を整理し今後のホームでの生活が円滑になるよう検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化に応じてその都度ご家族、主治医と話し合いの場を持っている。看取り加算の算定実績はない。	常時の医療行為が必要で、食物を口からとることができなくなる事が、施設の移行や退去の目安となるが、同一敷地内に老人保健施設、病院等を併設しているため重度化してきた場合にはそこへの移行を含めて家族と話し合う。ただ、そこまでは事業所内で対応するため現在ミキサー食や全介助の利用者も多い。過去には看取りの事例もあるが、その時には家族が希望して、主治医、事業所と話し合いながら実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が起きた場合に対応できる様職員同士の勉強会をしたりマニュアルの確認をしたりしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	事業所にマニュアルがあり急変時の対応や連絡先などが書いてある。随時参照し対応している。	「緊急時」というファイルがあり、その中に「緊急時のマニュアル」、「緊急連絡網」、「119番通報マニュアル」などが綴られている。マニュアルについては、新任職員の入職時に説明し、また初めて夜勤業務に従事する際にも説明している。あるいは、「ひやりはっと報告書」や「事故報告書」を作成しており、毎月のミーティングで対応を検討し、マニュアルについて話しをすることもあり、マニュアルの周知及び事故防止に努めている。マニュアルの見直しは、変更等があった場合に随時必要な見直しを行っている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関は1階の金沢春日クリニックでありバックアップ機関は渡り廊下でつながった回老人保健施設金沢春日ケアセンターである。	協力医療機関は、建物の1階にある、金沢春日クリニックである。利用者1名以外は、協力医療機関を主治医にしている。月に1回往診に来て、緊急時の対応など、1年を通し24時間対応可能である。1名の方は、他の医療機関が1か月に1回往診にきてくれている。また、センターの6階で月1回、歯科医師の診療日があるため、必要な方は受診させている。この他、本人が希望したとき、往診してくれる眼科医もいる。バックアップ施設は、センターで廊下でつながっている老人保健施設である。委員会活動や防災訓練、行事への参加、重度化した方の対応など密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したもとなっている	1ユニット1名の夜勤体制。緊急時対応の連絡先を決め、異変があっても対応できるようにしている。	夜間帯に利用者の状態に変化があった場合、まずは夜勤者同士で緊急性の有無について話し合う。そして緊急性があると判断した場合は、医師に直接電話を入れ指示を受ける。医師に連絡後、1階のクリニックの看護師が様子を見に来ることもある。救急車を呼んだ場合は、夜勤者が救急車に同乗することになっているため、管理者や他の職員が応援に来ることになっている。この1年では、夜間帯に救急車を呼んでいない。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。火災時等は2次被害を防ぐ観点から、地域住民等は建物内に入らないよう消防より指導されている。大地震が起きた場合には近隣の職員が駆けつけることになっている。	平成30年7月11日と31年3月14日にセンター全体での防災訓練を実施している。消防署立ち会いで総合訓練を実施している。訓練では、訓練シナリオが総務により作成され、訓練後はホームとして「防災防火訓練実施報告書」を作成し、防災意識を高めている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	総務課にて災害時の備品、物資の管理を行っている。また階により火災があった場合の応援体制が異なる為、一覧表を事務所に管理し非常時に備えている。	『「消火・避難」の手順』が事務所に掲示してある。また、「防災マニュアル」があり、火災、地震、風水害などについて記載されている。マニュアルの職員への周知は、訓練の際にマニュアルの内容にふれている。マニュアルの見直しは、総務で見直している。また、備蓄についても総務課において整備・管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりのご本人の個性に合った言葉かけや対応に心がけている。ご本人の立場に立って支援していけるよう努めている。	声かけなどの言葉遣いには、特に配慮が必要だと思っている。親しみを込めて、敬語だけを使っているわけではないが、その「親しみのある言葉」の中にも「尊敬」気持ちをもって話しかけるように心がけている。また、トイレの声かけや介助の際は、本人の羞恥心に配慮し、さり気なく介助し、プライドを傷つけないように取り組んでいる。また、その人その人の希望を把握して、個々の利用者に接するようにしている。例えば、声をかける時、苗字で呼ぶ方、下の名前と呼ぶ方、あるいは、ずっと教師をしていた方には、「〇〇先生」と呼んだりして、その人の意向に沿った対応を心がけている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけは〇〇してよろしいですか？と選択肢を作ることで自己決定できるようにしている。またご利用者によっては端的にこれから何をするのかを伝える事で安心してサービスを受けられるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のこれまでの生活の中での要望や不安な事などがなくご家族からの話に耳を傾けている。希望を尊重し個々のペースに合った見守りや支援をしている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪をご自身で行ってもらい好きな髪型にしたり、その日に合わせて着る服を選んでもらっている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使うように心掛けている。季節の行事やお祝い事なども取り入れご利用者の出来る範囲の食事の準備、片付けを職員と行っている。	食事介助の手順の「生活面」として①会話を楽しみながら、楽しい雰囲気の中で食べていただく。②できるだけ自分で食べることができるよう工夫する。また、「環境面への配慮」として、①食堂が明るく、清潔で、室温や換気に配慮する。②自分の座る場所が決まっていると安心。「食事の内容」として①心身の状態に応じた食事の提供。②旬のものを使った季節感にあるもの。③温かいものは温かいうちに提供するなどと記載されており、そうなるように努力している。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量をチェックしたり食が進まないご利用者には栄養補助食品を提供したりしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアだけでなく、必要に応じて随時うがいや義歯の手入れをしている。口腔内を見て必要な場合舌ケアをする場合もある。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本にしている。排便がない方やトイレの時間が長く空いた方には声かけや意思確認をしながら介助している。	排泄チェック表があり、声かけなどが必要な方のみ確認をしている。排泄チェック表で排泄の間隔を確認し、タイミング良い声かけを行い、トイレで排泄してもらい、失敗を防ぐことが出来るよう心がけている。布パンツで過ごしている方も2名いて、排泄が自立している方に関しても、失敗した時には、さり気ない声かけで、本人の羞恥心やプライドを傷つけないよう配慮し、本人の負担にならないように支援している。また、パットは、夜と昼で大きさなどを使い分けるなど、安心して睡眠が取れ、介護用品のコストも抑えられるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを把握し飲むヨーグルトやオリゴ糖などの飲食物を活用して排便を促している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おひとりおひとりのタイミングに合わせて声かけし入浴している。入浴を拒む利用者には体調や気分を配慮した上で声かけに工夫している。	毎日お風呂はわいていて、週2回は入浴してもらうよう支援している。希望があれば週3回以上入浴している方もいる。入浴介助は1対1なので、湯の温度はちょうど良いとか、世間話をする方、歌を歌う方など、コミュニケーションの機会になっている。高齢の方で一人、入浴を拒否する方がいる。その方の体調を見ながら、「お風呂」という言葉を使わず声かけしたり、本人の好みの物を持ち込んだりと、声かけの工夫をし無理強いはいしない。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室での休息は個々の体調等に配慮しながら休んで頂いている。居室の室温もご本人にとって快適なように調整している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は処方箋で確認している。また症状の変化は常に記録して主治医や看護師と情報交換している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の状態に合わせて出来る事をして頂いている。無理なく楽しめるように支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所の公園まで散歩をしている。天気の悪い日は棟内散歩をしている。車いすも活用し日光浴や外気浴をしている。	「業務手順」の中に、「外出、外泊の機会を多くし、施設内の介護だけでなく、外部や家族との触れ合いを持ち、心理的高揚とその支援を図る」と記載されている。重度化が進んでおり、なかなかセンターの外に出る機会は減っているが、気候の良い時期は近くの公園や神社に散歩に出ている。少ないが、毎日の買物と一緒に行くこともある。去年は花見に、倶利伽羅不動尊へ出かけている。センター内が広いので、駐車場を散歩したり、1階の喫茶店や展示物を見に行ったり、7階に行き新幹線が通過するのを眺めたりしている。2か月に1度、精神科に受診している方がいて、職員も一緒に同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は少額を保持している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話を使えない場合は職員が代わりに電話をかける支援をしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの物や植物を置いて居心地良く過ごせるように工夫している。フロアには季節感をとり入れた装飾をしている。	リビングは広く、和室があったり、ゆったりとした広い空間にソファやテーブル、椅子などが置いてあり、家族が面会に来てもリビングで面会できる。あるいは、他者から見えにくい空間が作られており、他者から離れたたい方は、居室だけでなくリビングでも気分転換する場所を確保できる。そして、対面キッチンであり、皆さんの様子を見ながら、会話しながら、食事を作ることができる。また、壁の飾り付けは、だいたい3か月ごとに変えている。利用者の皆さんも手伝い、季節を感じるができるように取り組んでいる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全部屋個室になっておりプライベートな空間がある。共用のフロアにはテレビを観たりご利用者同士で会話したりできる空間がある。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い出の写真や物などを持ち込みいつでも見られるようにしている。またテレビを持ち込み自由に観ているご利用者もいる。	職員は、室温、湿度、エアコンの風向き、換気、清潔保持などと共に、ベッドやタンスの位置に配慮し、動線を確保している。居室は、ご自宅で過ごしていたように過ごしていただいている。そのため、他者に迷惑にならないければ、可能な限り自由に過ごしてもらっている。例えば、大きなボリュームでテレビを見る方には、居室の戸を閉めて対応している。あるいは、テレビをつけたままでないと眠れないと言う方もいる。本人の思いをくんで、本人が快適に過ごせる居室になるよう心がけている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの為移動は比較的容易にできる。トイレには分かりやすい貼り紙をしている。フロア内には手すりがあり移動の支援に役立っている。		